

2021年度
(令和3年度)

事業報告書

自 2021年4月 1日

至 2022年3月31日

公益財団法人ユニジャパン

2021年度 事業報告

I. [事業の状況]

1. 国際映画祭事業

- 名 称： 第34回東京国際映画祭
- 主 催： 公益財団法人ユニジャパン
(第34回東京国際映画祭実行委員会)
- 共 催： 経済産業省
国際交流基金アジアセンター(アジア映画交流事業)
東京都(コンペティション部門、ユース部門)
- 期 間： 令和3年10月30日(土)～令和3年11月8日(月)
- 企 画： コンペティション、アジアの未来、ガラ・セレクション、
ワールド・フォーカス、NIPPON CINEMA NOW、日本映画クラシックス、ユース、
ジャパニーズ・アニメーション、TIFF シリーズ、TIFF マスタークラス、TIFF ティーンズ映画教室2021、トークシリーズ@アジア交流ラウンジ、ワールドシネマカンファレンス、Amazon Prime Video テイクワン賞、第18回文化庁映画週間 他
- 会 場： 東京ミッドタウン日比谷、東京国際フォーラムホールC、TOHO シネマズ日比谷SC12をメイン会場とし、その他都内劇場及び施設・ホールを使用
- 後 援： 総務省／外務省／観光庁／中央区／(独)日本貿易振興機構／
国立映画アーカイブ／(一社)日本経済団体連合会／東京商工会議所／
(一社)日本映画製作者連盟／(一社)映画産業団体連合会／
(一社)外国映画輸入配給協会／モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)／
全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／
特定非営利活動法人映像産業振興機構／(一社)日本映像ソフト協会／
(公財)角川文化振興財団／(一財)デジタルコンテンツ協会／
(一社)デジタルメディア協会
- 支 援： 文化庁
- オフィシャルパートナー： 日本コカ・コーラ株式会社／Amazon Prime Video
- プレミアムスポンサー： 三井不動産株式会社／タカラベルモント株式会社
- スポンサー： 大和証券グループ／株式会社アイム・ユニバース／
株式会社バンダイナムコホールディングス／
ハイアット リージェンシー 東京ベイ
- コーポレートパートナー： 松竹株式会社／東宝株式会社／東映株式会社／株式会社KADOKAWA／

日活株式会社／一般社団法人映画演劇文化協会／
一般社団法人日比谷エリアマネジメント／
東京ミッドタウンマネジメント株式会社

メディカルサポーター： ICheck 株式会社

メディアパートナー： 株式会社 J-WAVE／株式会社 WOWOW／日本映画専門チャンネル／
ウォール・ストリート・ジャーナル／LINE 株式会社／
株式会社つみき／株式会社ムービーウォーカー／ぴあ株式会社／
株式会社 ニッポン放送／Variety

フェスティバルサポーター：株式会社 IMAGICA エンタテインメントメディアサービス／
西尾レントオール株式会社／株式会社トムス・エンタテインメント／
人気酒造株式会社／株式会社クララオンライン／
株式会社レントシーバー／ゲッティ イメージズ ジャパン株式会社／
TAISHI

【開催概要】

第34回東京国際映画祭は、令和3年10月30日(土)から11月8日(月)まで10日間、新たに、会場を日比谷・有楽町・銀座地区へ全面移転する形で開催された。東京ミッドタウン日比谷を本拠地として、東京国際フォーラム、TOHO シネマズ日比谷、よみうりホールほか、その他各会場を利用する形となった。

安藤裕康チェアマン体制3年目の本年は、昨年につき、世界的なコロナ禍における取り組みとなり、慎重な検討を重ねての準備となった。官公庁ほか公的な支援は例年並み、或いは、それ以上を獲得する事が出来、また、民間協賛社による協賛金は一部取り戻してきたものの、全体予算は一昨年に比べると大きく減額した中での取り組みとなった。

まず、東京国際映画祭のVISIONとして下記を示した。

- ① コロナを越えたその先の映画の在り方を考えていく
- ② 国際映画祭として「国際」色を高めていく
- ③ 男女平等、環境保全などSDGsへ積極的に取り組んでいく

この目的を踏まえながら、大きなテーマとして「越境」をコンセプトとした。コロナによるコミュニケーションの断絶、男女差別、経済格差、国際紛争といった様々なボーダーを乗り越えていく、その先にある映画の姿を観て頂きたいという思いを示した。

その上で、上記の会場の移転、及び、プログラミングディレクターの交代という大きな2つの取り組みを行い、映画祭の発信力強化に努めた。

新たにプログラミングディレクターに着任した市山尚三氏は、黎明期の東京国際映画祭を支えた人物で、東京フィルメックスを立ち上げ20年の長きに渡って運営され、また、北野武監督やジャ・ジャンクー監督作品のプロデューサーを務めるなど、世界的な知名度、及び、影響力がある方であり、第34回TIFFはこの市山新体制のもと、部門建ての見直しも図った。

また、この大きな変革の年に、映画祭ビジュアルについても新たに、世界的ファッションデザイナーであるコシノジュンコ氏に担当いただき、「格好良い女性がコロナも吹っ切れて、前に向かう、風を切って向かう」という前向きなメッセージの伝わるビジュアルを開発いただいた。

海外ゲストの招聘については、コンペティション部門の審査委員長など、特例措置での申請という形で取り組んだ結果、7名の方をお迎えする事が出来たが、3日間のホテル内待機、及び、4日目以降のバブル対応措置が求められ、お越しいただいた方、及び、受け入れ側共々、大変な困難を伴う取り組みであった。

今年も上映はリアルな会場で実施、登壇可能な方はリアル登壇、会場にお越しいただけない海外作品のゲストの方については、オンラインによるQ&Aを実施する形となった。

映画祭そのもののコロナ対策としては、スタッフ全員の抗原検査体制を追加し、昨年以上に万全な形での対応とした結果、一人の陽性者も出ることなく、終えることが出来た。

なお、不特定多数の集客や大人数の人的交流を避けるため、従来のオープニングカーペット、オープニングパーティー等は昨年に引き続いて今年も中止とした。

その結果、今映画祭の自主企画は34企画（うちリアル20企画、オンライン14企画）で、リアルな動員数は57,546人（前年対比119.4%）、オンライン動員数は768,649人（前年対比70.5%）となった。上映作品数は125本で前年対比13本減。

オープニングセレモニーは、10月30日（土）に東京国際フォーラムホールCにて開催された。

セレモニーに先立ち、ホールCホワイエにて、「レッドカーペット・アライバル」と称する主要作品ゲスト、審査員、海外招聘ゲストを披露するカーペットイベントを行った。

その後、セレモニーに移り、冒頭、和奏女子楽団ウーマンオーケストラによる映画音楽メドレー演奏の後、安藤チェアマンによる開会宣言、岸田総理大臣のビデオメッセージによる祝辞があり、その後、フェスティバルアンバサダー橋本愛さんによるご挨拶、ワールド・シネマ・カンファレンスの招聘ゲストの紹介、各部門紹介の後、「NIPPON CINEMA NOW」部門特集上映の吉田恵輔監督の挨拶、「アジアの未来」部門審査員、及び、Amazon Prime Video テイクワン賞審査員のご紹介、そして、「コンペティション」部門国際審査委員のご紹介、及び、審査委員長イザベル・ユペール氏のご挨拶があり、最後にオープニング作品である『クライ・マッチョ』より、クリント・イーストウッド監督の監督50周年記念ビデオの披露、及び、監督ご本人からのお手紙の代読がなされ、休憩をはさみ、本編の上映となった。

クロージングセレモニーは、11月8日（月）にTOHO シネマズ日比谷スクリーン12で開催された。冒頭で今年の映画祭の振り返りがなされ、続いて、Amazon Prime Video テイクワン賞における審査員特別賞が瑚海みどり氏、テイクワン賞（本賞）がキム・ユンス氏に贈られた。アジアの未来作品賞は、『世界、北半球』に贈られ、ホセイン・テヘラニ監督によるビデオレターの披露がなされた。コンペティション部門は、観客賞に日本映画『ちょっと思い出しただけ』が選出され、松居大悟監督が登壇、挨拶を行った。その後、各賞の表彰が順次行われたが、いずれの作品の関係者も来日できなかったため、ビデオでのコメント披露となった。最後に、東京グランプリ/東京都知事賞が発表され、受賞作品『ヴェラは海の夢を見る』の監督カルトリナ・クラスニチ監督のビデオコメントが披露され、駐日コソボ共和国大使館臨時代理大使アルバー・メフメティ氏が審査委員長・イザベル・ユペール氏より東京グランプリトロフィーを、東京都・潮田副知事より東京都知事賞トロフィーを、それぞれ代理授賞された。その後、審査委員長による総評が行われた。その後、クロージング作品『ディア・エヴァン・ハンセン』のステイーヴン・チョボスキー監督のビデオメッセージが披露され、最後に、安藤チェアマンによる閉幕宣言がなされた。その後、映画本編の上映を行い、無事、閉幕となった。

[自主企画]

(1) コンペティション部門 (共催：東京都)

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2021年1月以降に完成した長編作品を世界各国から公募、選定コミッティーによる討議の後、15作品が選定された。

各作品の上映時、来場したゲストによる舞台挨拶、及び、Q&Aを万全な新型コロナウイルス対策と共に実施。また、来日できなかったゲストについては、劇場上映とは切り離れた形で別日時にセットしたオンラインQ&Aを行い、いずれも観客との交流を深めることが出来た。

[国際審査委員]

審査委員長：イザベル・ユペール（女優）

審査委員：青山真治（映画監督／脚本家）

クリス・フジワラ（映画評論家／プログラマー）

ローナ・ティー（プロデューサー／キュレーター）

世武裕子（映画音楽作曲家）

[各賞の授賞結果]

・東京グランプリ／東京都知事賞

『ヴェラは海の夢を見る』（監督：カルトリナ・クラスニチ）賞金：3万ドル

・審査員特別賞 『市民』（監督：テオドラ・アナ・ミハイ）賞金：5000ドル

・最優秀監督賞 ダルジャン・オミルバエフ『ある詩人』賞金：3000ドル

・最優秀女優賞 フリア・チャベス『もうひとりのトム』賞金：3000ドル

・最優秀男優賞 アミル・アガエイ、ファティヒ・アル、バルシュ・ユルドゥズ、
オヌル・ブルドゥ『四つの壁』賞金：3000ドル

・最優秀芸術貢献賞『クレーン・ランタン』（監督：ヒラル・バイダロフ）賞金：3000ドル

・スペシャルメンション 『ちょっと思い出しただけ』（監督：松居大悟）

・観客賞 『ちょっと思い出しただけ』（監督：松居大悟）※観客による投票で最高点

[上映作品数] 15作品 [動員数] 7,692人

(2) アジアの未来部門 (共催：国際交流基金アジアセンター)

日本を含むアジアで作られた、新鋭監督の3本目までの長編作品を対象にした、アジア・コンペティション部門。近年、日本映画がノミネートされていなかったが、日本映画スプラッシュ部門を統合する意味合いも含め、本年度は2作品を選出、全てワールドプレミア作品である計10作品より、最優秀作品賞が選出された。

[審査委員]

韓燕麗（東京大学 大学院 総合文化研究科 教授）

北條誠人（ユーロスペース支配人）

石井裕也（映画監督）

[アジアの未来 作品賞]

・『世界、北半球』（監督：ホセイン・テヘラニ）賞金：1万ドル

[上映作品数] 10 作品 [動員数] 3,145 人

(3) ガラ・セレクション部門

世界の映画を代表する日本公開前の最新作（公開未定作品含む）をプレミア上映する部門。本数も厳選し、計 12 作品となった。（オープニング作品、クロージング作品含む）

[上映作品数] 12 作品 [動員数] 5,812 人

(4) ワールド・フォーカス部門

世界の国際映画祭で話題になった作品で、日本国内の上映予定がない作品をいち早く紹介する部門。今年はラテンビート映画祭との共催による 3 作品も上映。

[上映作品数] 8 作品 [動員数] 3,658 人

(5) NIPPON CINEMA NOW 部門

今年の日本映画を代表する新作セレクションを上映。特に、海外に紹介されるべき日本映画という観点を重視。また、「監督特集 人間の心理をえぐる鬼才 吉田恵輔」という吉田恵輔監督の特集上映も行った。

[上映本数] 10 作品 [動員数] 1,576 人

(6) ジャパニーズ・アニメーション部門

昨年に続き、今年も藤津亮太氏にプログラミングアドバイザーを務めていただき、「2021 年、主人公の背負うもの」「アニメーター・大塚康生の足跡」「『仮面ライダー』の未来へ」の 3 つの特集上映を行った。更に、それぞれのテーマに基づいたマスタークラスの実施、関連する登壇イベントを多数実施し、映画祭全体の盛り上げに大きく貢献した。

[上映作品数] 13 作品 [上映動員数] 1,301 人

(7) 日本映画クラシックス部門

日本の名作のデジタル修復版を上映する部門。本年度は、「田中絹代監督特集」として、田中絹代が監督した 4 作品、及び、森田芳光監督作品『家族ゲーム』4K デジタルリマスター版を上映。

[上映作品数] 5 作品 [動員数] 648 人

(8) ユース部門

日本の若い映画ファンの創出、映画クリエイターの育成を目的とした部門。小学生までが対象の「TIFF チルドレン」では、恒例となった山崎バナラ氏による活弁イベント「山崎バナラの活弁小絵巻 2021」を上映。中高生が対象の「TIFF ティーンズ」では 3 プログラムを上映。また、「TIFF ティーンズ映画教室 2021」では、コロナ禍の中、昨年にも続き、オンラインワークショップの形を取った。今年は瀬田なつき監督を講師に迎え、3 チーム計 12 名の中学生の参加を得た。

[上映作品数] 10 本 [動員数] 1,343 人

(9) TIFF シリーズ部門

今年より新設されたシリーズものに特化した部門。TV シリーズや配信を前提としたシリーズも

のから選定。初年度の取り組みとして、アジアのシリーズものを2作品上映した。

[上映作品数] 2作品 [動員数] 375人

(10) 国際交流基金アジアセンター×東京国際映画祭 co-present

トークシリーズ@アジア交流ラウンジ

昨年続く第二弾。今年も是枝裕和監督を中心とする検討会議メンバーの企画のもと、アジアを含む世界各国・地域を代表する映画人と、第一線で活躍する日本の映画人とのオンライン・トークを期間中8日間実施・配信。アジアの映画人同士が語り合い、また世界中からの質問も受け付け、大いに盛り上がりを見せた。

[企画内容]

10月31日(日) イザベル・ユペール×濱口竜介
11月1日(月) チャン・チェン×是枝裕和
11月2日(火) 特別セッション「海外に映画を伝えるには」
11月3日(水・祝) カミラ・アンディニ×岨手由貴子
11月4日(木) バフマン・ゴバディ×橋本愛
11月5日(金) ブリランテ・メンドーサ×永瀬正敏
11月6日(土) アピチャップン・ウィーラセタクン×西島秀俊
11月7日(日) ボン・ジュノ×細田守

[企画数] 8企画 [リアル動員数] 261人 [オンライン視聴者数] 25,755人

(11) ワールド・シネマ・カンファレンス「映画界の未来」

本年初の試みとして、海外より著名な映画祭関係者、映画業界関係者を招き、映画を通じて交流する場「ワールド・シネマ・カンファレンス」を開催、「映画界の未来」をテーマに討議を行った。10月31日(日)実施 オンラインにて配信

[ゲスト登壇者]

- ・フレデリック・ボワイエ (トライベッカ映画祭アーティスティック・ディレクター)
- ・カルロ・シャトリアン (ベルリン映画祭アーティスティック・ディレクター)
- ・ジャン=ミシェル・フロドン (映画評論家/映画史家)
- ・クリスチャン・ジュヌ (カンヌ映画祭代表補佐兼映画部門ディレクター)
- ・ローナ・ティー (プロデューサー/キュレーター)

[オンライン視聴者数] 1,354人

(12) TIFF マスタークラス

ジャパニーズ・アニメーション部門で焦点を当てた、「2021年、主人公の背負うもの」「アニメーター・大塚康生の足跡」「『仮面ライダー』の未来へ」という3つのテーマについて、それぞれ有名監督や評論家を招き語り合い、その模様をオンライン配信(一部はリアルでも開催。配信は一部英語版も用意)にて公開した。

[企画数] 3企画 [リアル動員数] 116人 [オンライン視聴者数] 17,768人

(13) Amazon Prime Video テイクワン賞

東京国際映画祭では、更なる才能の発掘を目指して、国内外で優れたオリジナル作品を制作し、多様な映像作品を配信する Amazon Prime Video の協賛を得て、「Amazon Prime Video テイクワン賞」を新設した。これまでに商業映画の監督・脚本・プロデューサー経験のない日本在住映画作家の 15 分以内の短編作品を対象とし、募集。審査委員による厳正な審査の上、受賞作品を決定。受賞者には、Amazon から賞金 100 万円が贈られるほか、Amazon スタジオと長編映画の製作を模索し、脚本開発に取り組む機会も提供される。今回は、本賞に加え、急遽、審査員特別賞も選定される事となった。

[審査委員]

行定勲（映画監督）

渡辺真起子（女優）

磯見俊裕（美術監督）

アンドリアナ・ツヴェトコビッチ（元駐日マケドニア大使/映画監督）

エリカ・ノース（Amazon スタジオアジアパシフィック責任者）

[受賞結果]

- ・ Amazon Prime Video テイクワン賞 キム・ユンス（『日曜日、凧』） 賞金：100 万円
- ・ Amazon Prime Video テイクワン賞審査員特別賞 瑚海みどり（『橋の下で』） 賞金：50 万円

(14) TIFF トークサロン

来日招聘できない海外の作品ゲストにオンラインにて参加いただき、公開の形で Q&A を行った。長めの時間を取る事で、従来の登壇しての Q&A よりも数多くの質問に答えていただくことが出来、大変、良い企画になった。

企画数 38 企画 オンライン視聴者数 34,829 人

(15) 上映作品の舞台挨拶のオンライン配信

上映時のリアル登壇挨拶も同時に配信・アーカイブの形を取った。従来は、映画を鑑賞した方しか見ることのできない模様を幅広く鑑賞いただくことが出来た。

企画数 30 企画 オンライン視聴者数 17,409 人

(16) 東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場 屋外上映イベント

東京ミッドタウン日比谷の日比谷ステップ広場に高精細の LED パネルを用いた屋外上映スクリーンを設置。連日、上映会を行った。

10 月 30 日（土）日比谷屋外オープニング上映「シティーハンター THE MOVIE 史上最香のミッション デラックス」吹替版

10 月 30 日（土）～ 11 月 8 日（月）第 34 回東京国際映画祭@日比谷会場屋外上映会

11 月 1 日（月）、3 日（水・祝）、5 日（金）、6 日（土）「仮面ライダー 50th 仮面ライダー アニバーサリー in TIFF」

11 月 3 日（水・祝）「つばめ刑事」トークイベント

上映作品数 25 作品 動員数 3,543 人

(17) 「仮面ライダー50th 仮面ライダーアニバーサリー in TIFF」

日比谷ステップ広場での上映企画のゲストがオンライン上で集結。本年度映画祭の最大動員数を獲得する企画となった。

企画数 7企画 オンライン視聴者数 602,166人

(18) 女性監督のパイオニア 田中絹代トークイベント

女優・田中絹代の監督作品に関して、トークセッションを開催

[ゲスト登壇者]

- ・クリスチャン・ジュヌ (カンヌ映画祭代表補佐兼映画部門ディレクター)
- ・三島有紀子 (映画監督)
- ・斎藤綾子 (明治学院大学教授／映画研究者)
- ・富田美香 (国立映画アーカイブ主任研究員)

オンライン視聴者数 1,975人

[共催・提携企画]

(1) 第18回文化庁映画週間

①令和3年度文化庁映画賞贈賞式

優れた文化記録映画に賞を贈呈すると共に、日本映画を支えてきた功労者を顕彰。

会期：11月2日(火) 会場：帝国ホテル 東京

②令和3年度文化庁映画賞受賞記念上映会

文化庁映画賞優秀賞を受賞した作品を上映すると共に、監督を招きQ&Aを行った。

会期：11月6日(土) 会場：スペースFS 汐留

②第18回文化庁映画週間 シンポジウム

「1990年代日本映画」をテーマに、その魅力と現在の日本映画への流れ等を国内外映画人が語った。 会期：11月4日(木) 会場：丸ビルホール

上映作品数 2作品 リアル総動員数 291人 シンポジウム・オンライン視聴者数 48人

(2) 特別提携企画 「PFF アワード 2021」 グランプリ受賞作品上映 11月4日(木)

PFF アワード 2021 グランプリ作品『ばちらぬん』を上映。上映後、東盛愛花監督と出演者のトークを実施。 動員数：60人

(3) 「SKIP シティ国際Dシネマ映画祭 2021」 受賞作品上映 11月2日(火)

SKIP シティ国際Dシネマ映画祭 2021 の国内コンペティション長編部門優秀作品賞・観客賞受賞作品『夜を越える旅』を上映。上映後、Q&Aを実施。 動員数：66人

(4) 日本映画監督協会新人賞、上映とシンポジウム 11月5日(金)

HIKARI 監督作品『37セカンズ』の上映に続き、新人賞の表彰と監督協会、作品関係者によるシンポジウムを行った。 動員数：74人

(5) 日本映画監督協会シンポジウム

11月5日(金)

上記シンポジウムに続き、トークサロンの一環として、監督協会とHIKARI監督によるオンラインシンポジウムを行った。

(6) MPAセミナー

11月4日(木)

海賊版サイトの実態報告、対策と法制化を国内外の研究者が討議した。

会場：六本木アカデミーヒルズ オーディトリウム 動員数 35人 オンライン視聴者数 1,150人

(7) 第22回東京フィルメックス

会期：10月30日(土)～11月7日(日)

会場：有楽町朝日ホール、ヒューマントラストシネマ有楽町／オンライン上映

コンペティション、特別招待作品部門で各10作品、今年新設のメイド・イン・ジャパン部門で4作品を上映

上映作品数 24作品 動員数 8,560人 オンライン視聴者数 1,609人

(8) MPTE AWARDS 2021 第74回表彰式

11月10日(水)

映像制作現場の技術者を表彰する日本で唯一の賞「MPTE AWARDS」各賞の授与が行われた。

会場：東京国際フォーラム ホールD5

動員数 90人

(9) 映文連 国際短編映像祭 映文連アワード2021

11月29日(月)～12月1日(水)

受賞32作品を7つのプログラムに分けて上映。監督等を迎えてのトークセッションも2回開催

会場：国立新美術館講堂(表彰式)、ユーロライブ(上映会)

上映作品数 45作品 リアル動員数 500人 オンライン視聴者数 350人

(10) 第43回ぴあフィルムフェスティバル

9月11日(土)～9月25日(土)

「PFFアワード2021に加え、最新スカラシップお披露目やタイのナワポン監督の大特集などを実施

会場：国立映画アーカイブ

上映作品数 42作品 動員数 3,700人 オンライン視聴者数 2,946人

(11) SKIP シティ国際Dシネマ映画祭2021

9月25日(土)～10月3日(日)

今年で18回目となる本映画祭を今年はオンラインで開催

上映作品数 24作品 オンライン視聴者数 8,465人

(12) ショートショートフィルムフェスティバル & アジア 2021 秋の国際短編映画祭

10月21日(木)～24日(日)／10月1日(金)～31日(日) ※オンライン

2021年受賞作品の上映・配信と、NFTをテーマにしたクリエイターズセミナーを開催。

会場：東京都写真美術館ホール／オンライン会場

上映作品 49作品 動員数 1,080人 オンライン視聴者数 3,200人

(13) オンライン「コリアン・シネマ・ウィーク 2021」 11月2日(火)～11月7日(日)
日本未公開作品の最新韓国映画6作品をオンライン上映
上映作品 6作品 オンライン視聴者数 3,155人

(14) 2021 東京・中国映画週間 10月25日(月)～10月31日(日)
日中映画祭の「ゴールドクレイン賞」も6回目を迎えた。
会場：TOHO シネマズ日本橋
上映作品 9作品 動員数 1,200人 オンライン視聴者数 2,730人

(15) 第15回田辺・弁慶映画祭 11月19日(金)～11月21日(日)
会場：紀南文化会館／オンライン
コンペティション作品等、10作品を上映 動員数 367人 オンライン視聴者数 5,314人

(16) ポーランド映画祭 2021 11月20日～21日、23日、27日～28日
クシシュトフ・ケシロフスキ作品を中心に上映
会場：東京都写真美術館ホール 上映作品 11作品 動員数 1,075人

(17) 第18回ラテンビート映画祭 IN TIFF
TIFF との3度目のコラボ上映を実施 シンポジウム・オンライン視聴者数 90人

(18) オンラインシンポジウム「ジェンダー格差、労働環境、日本映画のこれからを考える」
映画界のジェンダー格差・労働環境の課題について、活発な意見交換が行われた。
主催 Japan Film Project 11月2日(火) オンライン視聴者数 8,947人

(19) “Sound Voice Guide 映画とアートの街めぐり Hibiya&Ginza”
10月23日(土)～11月13日(土)
会場：日比谷・銀座エリア各地 参加者数 115人

(20) 第1回みなとシネマフェスタ 11月28日(日)～12月5日(日)
港区内5地区6会場で開催し、障害者や未就学児との観覧など、幅広い方にお越しいただきました。
会場：赤坂区民センターほか 上映作品 9作品 動員数 821人

[顕彰・助成]

- ① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京グランプリ他、優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ② アジアの若手の優秀作品に対する顕彰（アジアの未来 作品賞）

③ 商業映画デビュー前の若い才能に対する顕彰 (Amazon Prime Video テイクワン賞)

【運営】

① 自主企画の実施

先述の通り

② 上映会場、各種会場

日比谷・有楽町・銀座地区をメイン会場とした。

・主要上映会場：

東京国際フォーラムホール C、TOHO シネマズ日比谷 SC12 よみうりホール、TOHO シネマズシャ
ンテ (3 スクリーン)、角川シネマ有楽町、ヒューマントラストシネマ有楽町 (1 スクリーン)、シ
ネスイッチ銀座 (2 スクリーン)

・その他の会場：

東京ミッドタウン日比谷

日比谷三井カンファレンス：映画祭事務局、控室、トークサロンスタジオ、プレスルーム

BASE Q：各種セミナー、ボランティア控室、弁当・ケータリング

DRAWING HOUSE OF HIBIYA：アジア交流ラウンジ会場

パークビューガーデン：同上

日比谷ステップ広場：屋外上映会場

帝国ホテル、丸ビルホール：各種イベント、セミナー

有楽町駅前広場：チケットセンター、インフォメーションセンター等

③ 入場料金

○オープニング作品、クロージング作品	一般：2,600円	学生前売・当日：2,100円
○コンペティション	一般：1,600円	学生前売：1,100円 学生当日：500円
○アジアの未来	一般：1,600円	学生前売：1,100円 学生当日：500円
○ガラ・セレクション	一般：1,900円	学生前売：1,500円 学生当日：500円
○ワールド・フォーカス	一般：1,600円	学生前売：1,100円 学生当日：500円
○NIPPON CINEMA NOW (新作)	一般：1,900円	学生前売：1,500円 学生当日：500円
○NIPPON CINEMA NOW (旧作、準新作)	一般：1,400円	学生前売：1,100円 学生当日：500円
○ジャパニーズ・アニメーション (新作)	一般：1,900円	学生前売：1,500円 学生当日：500円
○ジャパニーズ・アニメーション (旧作、準新作)	一般：1,400円	学生前売：1,100円 学生当日：500円
○日本映画クラシックス	一般：1,400円	学生前売：1,100円 学生当日：500円
○ユース	一般：1,500円	学生前売：500円 学生当日：500円
○TIFF シリーズ	一般：1,600円	学生前売：1,100円 学生当日：500円
○その他企画上映	一般：1,400円	学生前売：1,100円 学生当日：500円

○Amazon Prime Video テイクワン賞 一般：1,500円 学生前売：1,100円 学生当日：500円

④会期中の情報発信

・有楽町駅前広場の展開

映画祭期間中、有楽町駅前広場に、インフォメーションセンター、及び、チケットセンターを設置。同時に、上映作品のポスターの掲示やLEDビジョンを設置し、映画祭に関する情報発信の場とした。その他、キッチンカーの設置や協賛社向けのサンプリングの実施なども行った。

・東京ミッドタウン日比谷 地下広場の展開

映画祭期間中、同時期実施の日比谷シネマフェスティバルと共に、ミッドタウン日比谷の地下広場空間に映画作品のポスター掲示等を行い、賑やかさを演出

・東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場における屋外上映の実施

自主企画（16）を参照

⑤ボランティア、インターン・スタッフの採用

TIFFのWEBサイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場で案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらおう試みも実施した。

⑥オリジナル・グッズの販売

TIFF オフィシャルグッズとして、公式プログラム、公式バッグ等を販売した。

⑦クラウドファンディング

本年度もクラウドファンディングを通じ「東京国際映画祭サポーター」を募集した。値段設定や特典（オープニングセレモニー入場券等をうまく活用）の工夫を行い、一定程度の参加者を得た。

[広報活動]

1. メディア登録者数

国内メディア：1,014名 海外メディア 399名

パス発行、プレスセンター運営、会期中のマスコミ対応はすべてバイリンガル対応を実施

※渡航制限により海外プレスのビザサポート等渡航に関わる支援はなし。

2. 国内宣伝パブリシティ

露出数：10,487（11月30日時点）

TV 媒体広告換算値：3億1267万8829円

WEB 媒体広告換算値：70億824万7789円

コロナの影響で媒体を限定せざるをえなかったことや例年のメインイベントであるレッドカーペットを縮小したため露出量は大幅に減少したが、会場移転やプログラマーの交代による改革の打ち出しは各マスコミから高評価を受け、内容としては従来にない充実を見せた。

3. 海外宣伝パブリシティ 露出数 : 2,914

昨年に引き続き、海外記者の来日が叶わない中で、「コロナ禍での大型イベント」がフックとなった昨年と比較し、注目度が高いゲストや企画の減少により取材数が減ったが、映画祭の改編、会場の移転等注目度が高い話題については、積極的なアプローチにより業界誌を中心に発表毎に取り上げてもらえた。また記者との継続的に良好な関係を構築およびオンライン取材のシステム化により、個別取材を昨年よりも多くスムーズに実施でき、特に拡散力のある通信社等による映画祭・上映作品に関する良質な記事露出の確保につながった。

4. 記者会見

○ラインナップ発表会見 2021年9月28日 東京ミッドタウン日比谷 6F BASE Q HALL

○FCCJ (外国人特派員協会) 会見 2021年10月5日

○審査委員&受賞者記者会見 (観客賞・スペシャルメンション)

2021年11月8日 TOHO シネマズ日比谷 劇場内

5. 国内宣伝広告 J-wave 各種番組出演・告知、LINE LIVE 企画、Filmarks 特集・バナー広告、Movie Walker 特集・バナー広告、ぴあ特集・バナー広告、ニッポン放送番組出演・ラジオ CM・バナー広告

6. 海外宣伝広告 The Wall Street Journal、Variety、Screen International、The Hollywood Reporter (紙面およびバナー広告)

7. 海外プレス招聘 . . なし (代替としてオンライン招聘を実施。優先的にオンラインスクリーナーの提供、チェアマン等 TIFF 代表者のグループインタビュー設定や、作品監督の個別取材を優先的に案内する等、積極的な情報提供や取材環境の醸成を実施)。

8. 宣材物

予告編 2021年9月24日より首都圏各劇場にて上映

メインビジュアル . . 2021年から新たに KOSHINO JUNKO 氏がデザインおよび撮影等監修

紙媒体 プログラム、映画祭ガイド、公式記録はすべて日英表記にて作成

9. 公式 WEB、SNS の展開

SNS 展開に力を入れ、ツイッターのフォロワー数が5万人を突破。YouTube の公式番組も「TIFF スタジオ」から「TIFF チャンネル」に名称を変え (チャンネル登録者数2万人突破) で特集展開。「TIFF トークサロン」としても YouTube を活用し各作品のゲストとオンラインで対談し情報発信。媒体の特性に合わせて戦略的に国内外へと発信。

<各 SNS フォロワー数>

Twitter : 50,997 / Twitter (ENG) : 945 Facebook : 22,446

LINE : 31,320 Instagram : 9,126 YouTube : 26,456

10. Cyber TIFF . . 東京国際映画祭の動画配信プロジェクト。公式 WEB 及びモバイルサイトでの動画配信を通して、TIFF の最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの様子はインターネットへの配信を実施。また、撮影した素材は各マスコミに提供して東京国際映画祭の情報発信に寄与。

(東京ミッドタウン日比谷での広報活動)

会期前の10月25日 (月) より最終日の11月8日 (月) まで、東京ミッドタウン日比谷の屋外大型 LED ビジョン裏面や柱巻きなどを華やかでインパクトのある映画祭ビジュアルで装飾し、会場

の賑わいを演出した。同様のビジュアルを館内のデジタルサイネージで展開した。また館内地下通路では数多くの作品ポスターを掲出した。

(日比谷地区での広報活動)

各所のデジタルサイネージにおいて、映画祭のビジュアルとともに作品情報、イベント情報などを発信した。また同様のビジュアルを街頭フラッグで展開し、映画祭の賑わいを演出した。

- ①ミッドタウン日比谷正面ビジョン
- ②ビックカメラビックビジョン
- ③有楽町線有楽町駅改札前サイネージ
- ④日比谷ゲートビジョン
- ⑤都営ステーションビジョン日比谷
- ⑥地下鉄連絡通路 コルトン
- ⑦日比谷仲通りフラッグ
- ⑧丸の内仲通りフラッグ
- ⑨JR 有楽町駅前広場特設ビジョン

(東京都交通媒体での広報活動)

東京都交通局のご協力のもと、10月22日(金)から11月8日(月)までの長期間に渡り、都営地下鉄および都営バスと映画祭とのタイアップキャンペーンの告知を行った。

- ① 都営地下鉄全駅 構内ポスター掲出 145 枚
- ② 都営地下鉄 中吊り掲出 3,116 枚
- ③ 都バス窓上広告掲出 (都営地下鉄中吊り枚数に含む)

1-2. 国際映画祭事業

名称：国際交流基金アジアセンター×東京国際映画祭 co-present

CROSSCUT ASIA おいしい！オンライン映画祭

主催：国際交流基金アジアセンター/東京国際映画祭

協力：駐日インドネシア共和国大使館、駐日シンガポール共和国大使館、駐日タイ王国大使館、駐日フィリピン共和国大使館

目的：新型コロナウイルスの影響で、以前に比べ人々が在宅で過ごす時間が多い現状を踏まえ、東南アジア及び日本の映画のオンライン上映を行い、活動が制限されている状況下でも日本と東南アジアの人々がそれぞれの文化への理解を深める機会を作るとともに、アジアにとともに生きる隣人としての共感や共生の意識を育む。

上映作品・企画内容：

第1部 CROSSCUT ASIA 特別編「おいしい」アジア映画特集

東南アジア各国・地域の食文化にまつわる珠玉の作品7本を上映

第2部 CROSSCUT ASIA アンコール

これまでの東京国際映画祭「CROSSCUT ASIA」部門上映作品から選りすぐりの作品6本を再上映

本編上映の他に、各国ランチレポート、大使館インタビュー、各監督とのオンライン・トーク等の関連動画も用意。

配信プラットフォーム（Shift72 を活用）に誘導する公式ウェブサイトを構築し、基本的に日本語・英語対応。

尚、作品のあらすじなど一部多言語（インドネシア語、クメール語、タイ語、ベトナム語）表示方法を実施。

実施時期：2022年1月21日（金）10時～2月3日（木）23時59分（日本時間）まで

対象地域：日本、及び、東南アジア、及び、各国（一部作品のみ）

視聴方法：無料

視聴登録ユーザー数：4,121人 下記内訳

日本（3,259人）、タイ（444人）、インドネシア（260人）、フィリピン（178人）、マレーシア（65人）、カンボジア（56人）、ベトナム（32人）、シンガポール（30人）、その他各国
視聴総申込数：9,055件 うち90%視聴数：5,643件

2. TIFFCOM 開催事業

「TIFFCOM2021」の製作運営

■ TIFFCOM 2021 開催概要

- ① 主催： 経済産業省／総務省／特定非営利活動法人映画産業振興機構／
公益財団法人ユニジャパン
- ② 共催： 第34回東京国際映画祭
- ③ 日程： 令和3年11月1日（月）～11月3日（水）
オンラインスクリーニングは10月25日（月）～11月30日（火）まで視聴可能
オンラインセミナーは11月1日（月）～11月30日（火）までアーカイブ配信
- ④ 会場： オンラインでの開催

■ TIFFCOM 2021 成果報告

TIFFCOM2021 は、前年と同様、経済産業省、及び総務省の支援を受け、コロナ禍の状況の中、2回目のフル・オンライン開催となった。初めてのオンライン開催であったTIFFCOM2020の課題を整理し、海外のオンラインマーケットの分析も行い、参加者が使いやすいオンライン環境を目指して改善した結果、世界標準レベルのオンラインマーケットを開催することが出来た。

313の出展団体が参加、出展者の国・地域数は30と二年連続で過去最高を更新、登録バイヤー数584人、商談件数は2536件、成約金額は\$31,505,489,269 となった。

【オンラインマーケットで提供したサービス】

TIFFCOM2021 参加者には4つのサービスを提供した

○オンラインブース

オンラインチャット機能、スケジュール管理機能、ミーティングリクエスト機能ならびに

ビデオ会議機能を実装し、商談機会につながる環境を提供した。

また、CMS (Content Managing System) 対応ページにすることで、参加者は独自に情報のページ反映が即時可能になり、利便性が高まった。

○オンラインビジネスマッチング

業種やカテゴリーによる詳細検索、登録情報に基づいたレコメンド検索機能といった出展者とバイヤーとの有益な商談機会につながる環境を提供。

また、会期中のページへのアクセス情報を出展者の管理ページで確認できる機能を提供し、興味を持っているバイヤーにアクションしやすくした。

○オンラインスクリーニング

セキュアな環境下 (DRM) での出展者とバイヤーをつなぐオンラインスクリーニングサービスを提供。時間と空間に左右されることのないオンラインではの優位性が発揮できた。細かくカテゴリー分けされた検索機能も実装した。

○オンラインセミナー

企画ピッチとセミナーで計 15 のプログラムを実施。映画、TV、配信、アニメといった様々なジャンルをフランス、中国、韓国、ロシアと海外から多彩なスピーカーも参加して、バラエティに富んだラインナップになった。参加者が映像関連の新しい情報を知り、知見を深めて、問題を持つことが出来るという、TIFFCOM の「場」としての価値を高めることができた。

[出展者の状況]

■ 2021 年度 出展団体数【 海外：179 / 国内：134 合計：313 】

国・地域別出展団体数

アジア	105	日本	134	北米	15
中国	14	ヨーロッパ	48	カナダ	1
香港	4	フランス	18	アメリカ	14
インド	1	ドイツ	1	中南米	6
インドネシア	1	イタリア	4	ブラジル	5
韓国	39	モンテネグロ	1	ウルグアイ ☆	1
マレーシア	2	カザフスタン	2	オセアニア	2
フィリピン	3	ポルトガル	1	ニュージーランド	2
シンガポール	3	ロシア	10	中近東	3
台湾	11	スペイン	1	イラン	1
タイ	27	スイス	1	トルコ	1
		イギリス	8	レバノン	1
		ウクライナ ☆	1		

※国・地域名の後の☆印の入っているウクライナ、ウルグアイが初出展

パビリオンは日本 (2)、ASEAN (4つの国・地域)、韓国 (2)、タイ、ロシア、台湾に加え、ロケーションパビリオン (中南米、ヨーロッパ) の計 10 が設置

[登録バイヤーの状況]

■ 2021 年度 : 584 人

国・地域別来場バイヤー数

アジア	306	ヨーロッパ	94	北米	50
ブルネイ	1	アンドラ ☆	1	カナダ	4
カンボジア	3	エストニア	1	アメリカ	46
中国	40	フィンランド	5	中南米	12
香港	53	フランス	20	アルゼンチン	1
インド	3	ドイツ	19	ブラジル	6
インドネシア	5	アイルランド	1	メキシコ	4
韓国	66	イタリア	11	チリ	1
マレーシア	9	ノルウェー	2	オセアニア	3
フィリピン	9	ロシア	5	オーストラリア	1
シンガポール	22	スペイン	8	ニュージーランド	2
台湾	57	スウェーデン	1	中近東	7
タイ	22	イギリス	12	サウジアラビア	2
ベトナム	15	ギリシャ	1	トルコ	2
バングラデシュ☆	1	ハンガリー	1	UAE	2
日本	111	ポーランド	1	イスラエル	1
		オランダ	4	アフリカ	1
		スイス	1	エジプト	1

※国・地域名の後の☆印の入っているバングラデシュ、アンドラが初参加

45 の国、地域から参加。海外からの参加者が全体の 81%を占め、昨年と比べてさらに国際色豊かなマーケットとなった。

[TIFFCOM セミナーの状況]

全 15 セミナーを開催。

オンラインでの開催のメリットを生かし、リアルだと参加が難しい登壇者（海外）にも参加してもらうことが可能となった結果、映画、TV、アニメ等多様なセミナーが実現
開催内容

1. 「変わらぬ美しい蘇州市相城と変わりゆく映画人」
2. 「Borderless Creativity:Insight from Korea」
3. 「Fresh Content from Japan」
4. 「KADOKAWA アニメの海外戦略、”ISEKAI” 作品事例と今後に向けて」
5. 「アニメ産業レポート 2021 に見るコロナ禍でのアニメ最前線」
6. 「東京ドラマアワード 2021 受賞結果最新情報」
7. 「MPA/DHU/TIFFCOM マスタークラス・セミナー&ピッチング・コンテスト」
8. 「Netflix:アジアから世界へ！ヒット作品への道のり」

9. 「次世代プロデューサーが考えるアニメーション制作の海外連携」
10. 「ロシアン・シネマ：国境を越えて時代に合わせた歩み」
11. 「TGFM 2021 選抜プロジェクト プレゼンテーション」
12. 「TIFF セラー作品予告編集」
13. 「VIPO Japanese Movie & Animation Pitching (JMAP)」
14. 「What is Tokyo Docs 2021」
15. 「コロナ後に向けた映画産業の取り組み～国際的な視点で考える～」

[TOKYO GAP FINANCING MARKET (TGFM) の状況]

製作予算がある程度集まっている作品に対し、残りの資金調達のサポートを行うため、作品への投資を行う可能性のあるインベスターと作品プロデューサーとのマッチングを行う TGFM を昨年に続き、2 回目を実施。53 の国と地域からの応募総数 97 の企画より 20 作品を選定し、TIFFCOM2020 の期間中 3 日間に 217 件を超えるオンラインミーティングを実施した。いずれも昨年を上回る数字を達成。

バイヤー、セラーの参加が中心に TIFFCOM に、製作に関わるプロデューサーや資金を提供するインベスター等が参加する本企画が加わったことで、多様な映像業界関係者が集うマーケットへのステップを踏み出すことが出来た。世界的にも独自の存在感を発揮できるマーケットに成長するためにも、今後も引き続き TGFM に力を入れていく。

3. 国際振興支援事業

【国際展開支援】

(1) 海外の国際映画祭・映画賞への出品支援（文化庁の委託事業）

海外映画祭に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

■ 令和3年度支援実績

1. 支援内容と支援件数

(A) 支援対象映画祭公式部門出品への支援	申請件数	32	採択件数	30
(B) 3大映画祭長編メインコンペティション部門出品への支援	申請件数	2	採択件数	2
(C) 支援対象映画祭映画祭公式部門出品への支援(個人からの申請)	申請件数	11	採択件数	10
(D) クラシック(デジタルリマスター3大映画祭出品時字幕制作)	申請件数	1	採択件数	1

2. 選考

(A) 前期、中期、後期に分け、それぞれ選考委員会を開催し支援作品の選考を行った。

・前期(5月～7月) 申請件数 18 採択件数 17

・中期（8月～11月）	申請件数 23	採択件数 22
・後期（12月～3月）	申請件数 5	採択件数 4

(B) 選考委員会のメンバーは以下の5名に委嘱した。

- ・坂野 ゆか（川喜多記念映画文化財団）・新藤 次郎（日本映画製作者協会代表理事）
- ・華頂 尚隆（日本映画製作者連盟）・石坂 健治（日本映画大学教授）
- ・石飛 徳樹（朝日新聞社編集委員）

(2) 日本映画・映像コンテンツの海外発信支援（文化庁の委託事業）

■ 主要映画見本市への「ジャパンプース」出展

海外の主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパンプース」を出展、日本映画情報センターとして活用する他、ブーススペースを日本映画の海外販売を行う 事業者を提供、日本映画の輸出や共同製作等の海外展開を支援している。

令和3年度は新型コロナウイルス蔓延の影響を受け、いずれの見本市もオンラインの開催となった。

出展した映画祭

- (A) カヌヌ国際映画祭（開催日程 7月6日～17日） 公式出品作品 9本
同マーケット（開催日程 7月6日～15日）

オンラインでのジャパンプースの設置のほかに、公式出品作品の日本映画の監督を招致しオンラインでのセミナーを実施した。

- (B) ベルリン国際映画祭（開催日程 2月10日～20日） 公式出品作品 5本
同マーケット（開催日程 2月10日～17日）

ジャパンプースの設置のほかに、若手日本人監督のプロモーションと交流を目的とした「日本人新人監督海外プロモーション」を実施した。期間中、業界誌 Screen International への日本映画の特集記事や「日本人新人監督海外プロモーション」参加監督の紹介記事の掲載を行った。

- (C) 香港国際映画祭 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、延期された。
同マーケット（開催日程 3月14日～17日） ブース参加日本企業 12社
ジャパンプースの設置を行った。

(3) 国際共同製作支援（経済産業省の委託事業）

■ 日中協定における取組機関としての事務業務

本年度も日中映画共同製作協定の取扱期間として委任を受けた。日中映画共同製作認定応募要項を策定して申請の受付を行い、文化庁の「国際共同製作への支援」との合同説明会を実施、認定申請の書類審査を継続して行ったが、年度中に該当する完成作品はなかった。

- ① 応募要項、応募様式の作成
- ② 申請予定者向けの説明会開催概要

「日中映画共同製作認定／国際共同製作映画支援 合同説明会」

日時：令和3年11月25日（木） 13：30～15：00

開催方法：オンライン会議システム

参加者： 58人

参加省庁：経済産業省、文化庁

③ 認定委員会開催

日時： 令和3年6月2日（水） 15:00～16:00

開催方法：オンライン会議システム

参加者：有識者4名

参加省庁：経済産業省、文化庁、外務省

■ 国際共同製作認定の廃止に伴う経過措置

2019年度に暫定認定を受け20年度へ繰越して本年度に制作を終えた3作品の最終認定業務を行った。

【 情報発信 】

（1）海外向け日本映画データベース・Japanese Film Database (JFDB) の運営 （国際交流基金との共同事業）

主に21世紀の日本映画に関して、日本で唯一の日英バイリンガルのオンラインデータベースの運営を継続的に行っている。令和3年には日本国内で1週間以上劇場公開された作品を中心に、約250本を新規掲載し、JFDBアーカイブと題した一部のクラシック作品も含め、現在合計で6,400作品以上のデータを収めている。海外販売をサポートするため映画マーケットでのセールス作品に特化したページ”Market Look”や、年間の特筆すべき作品を特集したページも開設した。

（2）海外向け日本映画・アニメ年鑑「Japanese Film」の発行と配布 （文化庁の委託事業）

海外における日本映画の上映促進を目的とし、主要映画祭・映像見本市にて配布するべく、令和3年に劇場公開された代表的な日本映画・劇場版アニメの紹介と、日本映画産業統計、日本映画概況を掲載した小冊子を作成した。

■ Japanese Film 2021 の概要

- ① 配布数： 1,800部（冊子）及びデジタル版
- ② 配布先： カンヌ、アヌシー、ベネチア、TIFFCOM（東京）の各映画祭、見本市開催時に配布の他、日本政府在外公館、国際交流基金海外事務所、駐日外国公館に送付
- ③ 掲載作品： 選考委員会により80作品を選出し、日本語・英語併記で紹介
- ④ 日本映画産業統計： 一般社団法人日本映画製作者連盟、一般社団法人外国映画輸入協会より

協力を得て、各種統計情報を掲載

(3) 第18回 文化庁映画週間の実施（文化庁の委託事業）

我が国の映画芸術の向上とその発展に資するため、文化庁映画賞として優れた文化記録映画作品（文化記録映画部門）及び永年にわたり日本映画を支えてきた功労者（映画功労部門）に対する顕彰を行った。また、若年層へ向けた企画として国立映画アーカイブの特集企画とも連携し日本映画が海外で評価され躍動した90年代の日本映画をテーマとしたシンポジウムを実施した。

【令和3年度 文化庁映画賞】

令和3年度 文化庁映画賞 文化記録映画部門 受賞作

[文化記録映画優秀賞] 『きこえなかったあの日』 監督・製作：今村彩子

[文化記録映画優秀賞] 『二重のまち／交代地のうたを編む』
監督・製作：小森はるか＋瀬尾夏美

[文化記録映画優秀賞] 『夜明け前のうた 消された沖縄の障害者』 監督・製作：原義和

令和3年度 文化庁映画賞 映画功労部門 受賞者

小野寺桂子	映画編集
佐々木原保志	撮影監督
鈴木高正	映画美術
千蔵豊	アニメーション編集
星一郎	映画録音
村瀬継蔵	特殊美術造形

●文化庁映画賞贈呈式

- ・会期・会場：令和3年11月2日（火）14時00分～
- ・会場：帝国ホテル 東京 「牡丹の間」
- ・主催：文化庁

●文化庁映画賞 受賞記念上映会

- ・会期：令和3年11月6日（土）
13時00分～『きこえなかったあの日』 上映
Q&A ゲスト：今村彩子（監督） 司会：池田香織
16時30分～『二重のまち／交代地のうたをあむ』 上映
Q&A ゲスト：小森はるか＋瀬尾夏美（監督） 司会：池田香織
- ・会場：スペース FS 汐留
- ・主催：文化庁

●シンポジウム

「1990年代日本映画から現代への流れ」

- ・会期：令和3年11月4日（木）16時00分～
- ・会場：丸ビルホール

- ・主催：文化庁
- ・共催：公益財団法人ユニジャパン

■第一部「私と90年代日本映画のディスタンス」

登壇者：

ジャン＝ミシェル・フロドン（映画評論家／映画史家／パリ政治学院准教授／セントアンドリュース大学名誉教授）

野原位（監督）

モデレーター：

金原由佳（映画ジャーナリスト）

■「インディペンデント映画が躍動した90年代」

登壇者：

山下敦弘（監督）

門間雄介（ライター／編集者）

【人材育成】

「第43回 PFF」の共催（川喜多記念映画文化財団の補助事業）

公益財団法人川喜多記念映画文化財団の指定寄付を受けて、「第43回ぴあフィルムフェスティバル（PFF）」に共同主催として参画した。

■開催概要

- ・会期：2021年9月11日（土）～25日（土）
- ・会場：国立映画アーカイブ
- ・主催：一般社団法人PFF、独立行政法人国立美術館 国立映画アーカイブ、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパン

■最終審査員

池松壮亮（俳優）、今泉力哉（映画監督）柴崎友香（作家）、岨手由貴子（映画監督）、高田 亮（脚本家）

■受賞結果

グランプリ	『 <u>ばちらぬん</u> 』 東盛あいか監督
準グランプリ	『 <u>グッバイ!</u> 』 中塚風花監督
審査員特別賞	『 <u>Journey to the 母性の目覚め</u> 』 岡田詩歌監督
	『 <u>転回</u> 』 岩崎敢志監督
	『 <u>豚とふたりのコインランドリー</u> 』 蘇鈺淳監督
エンタテインメント賞(ホリプロ賞)	『 <u>愛ちゃん物語♡</u> 』 大野キャンディス真奈監督
映画ファン賞(ぴあニスト賞)	『 <u>愛ちゃん物語♡</u> 』 大野キャンディス真奈監督
観客賞	『 <u>距ててて</u> 』 加藤紗希監督

■東京国際映画祭での特別提携企画

- ・PFF アワード2021 受賞作品上映